

## は し が き

この研究報告は、当教育センター科学教育部所員と長期研修員の一年にわたる研究成果をまとめたもので、中学校・高等学校関係の論文13編をのせてあります。

さて、この一年間の教育界をふり返ってみますと、さまざまな動きがあったなかで、特筆すべきことは、教育課程改訂の方針が具体化されたことであります。

昨年の12月に公表された教育課程審議会の答申は、改訂のねらいとして「ゆとりある充実した学校生活」などの3点を示し、一貫教育の観点に立って、かなり徹底した教育内容の精選を目指しています。このような答申がなされた背景には、学校教育がともすれば単なる知識の伝達にかたより、児童生徒の調和的な発達を妨げるような傾向もあるので、この現状を改善し、自ら考え正しく判断する力を養う教育への質的転換を図ろうとする意図がみられます。

当教育センターでは、これらの情勢を見通して、すでに数年前から教育の現代化の名のもとに「基礎的・基本的内容の精選」や「児童生徒の実態に即して、ひとりひとりの能力を問題解決の学習をとおして、どのように育成するか」を基本的なねらいとして研究を進めてまいりました。また、その成果を基礎とした各種の講習と研修も実施してまいりました。この研究報告におさめた論文も、理科教育の現代化に対応した指導上の問題点や素材を検討したもので、その考え方や資料は学校での理科の指導に役立つものと信じます。

しかし、引き続き研究を要する内容のものもあり、また、研究の進め方や結論の導き方に不じゅう分なものもあるかと思いますので、お気づきの点は、率直な御指導と御批判をいただけたら幸いです。

最後に、これらの研究にあたり、御助言をいただいたり便宜を与えてくださいました各位に厚くお礼を申し上げます。

昭和52年3月

新潟県立教育センター所長 北川正司